



発行所
 福島県退職公務員連盟福島支部
 〒960-8043 福島市中町5-21
 県消防会館内
 TEL/FAX (024)522-0612
 発行者 齋藤文和

6年度研修旅行

福島駅西口出発・東北・三陸自動車道・石巻市震災遺構大川小・伝承館・雄勝の防潮堤壁画海岸線の美術館・リアスブルーライン・女川・鈴家(昼食)・女川復興商店街・東北・三陸自動車道・福島西口着

6年度研修旅行を実施しました。去る10月1日(火)、バスは30名の方々を乗せて南三陸の風光明媚な石巻市・雄勝・女川町を巡り、「石巻市震災遺構大川小学校」「雄勝の防潮堤壁画」「女川」を五感で「過去と今」を味わいました。参加された方の感想から想像してみてください。

研修旅行に参加して 笹谷3 鈴木淳一様

石巻、女川を訪ねるバスの旅は、甲賀福祉部長さんの名企画と佐藤茂子ガイドの名調子のもと、お天気にも恵まれてとても有意義な一日となりました。私は震災遺構大川小学校を一番の目的に参加しました。裁判の判決やドキュメンタリー映画「生きる」も拝見しておりましたが、当日は想像以上に当時の実感を伴ったお話が伺えて大変勉強になりました。

献花、黙とうの後、語り部の三條さんが、校門から裏山まで、テンポよく案内、説明してくださり、つらい話も分かりやすく歯切れよく話す姿が印象的でした。

やはり、現地を見てお話を聞いて初めて分かることも多いものです。リアス式海岸地形。海のそばにも山。近くても海の様子は見えません。過去の地震では幸い津波被害に遭いませんでしたし、当時のハザードマップでも浸水想定区域外でしたが、危険は指摘されていました。

あの日は大津波警報が発令され、消防車や広

報車が高台避難を呼びかけて回る中、北上川を遡上した津波が海へ戻る返し波で被災したのですが、当時は住宅も建ち並び、直前まで津波は見えなかったそうです。

校庭から裏山に登り、幅3m程のコンクリート通路を歩いて見ると、亡くなった74人もの児童がなぜここに避難しなかったのか、なぜ避難の判断に時間がかかったのか、その理不尽さが改めて胸に迫ります。

三條さんは、卒業生である次男をこの近くのご自宅ごと津波で亡くされたそうです。「私の帰りを待っていたのかもしれない」と悔やんでおられます。数々の深刻なお話を率直に我々に共有していただき、心から感謝いたします。

女川での昼食は、ご当地らしいクジラやサンマも入った刺身定食。最後に女川駅前の復興道の駅で、買い物や散策を楽しんで予定通り帰途に就きました。生涯学習の時代。個人旅行では叶わないような貴重な経験をさせていただき、福島支部と福祉部に厚く御礼申し上げます。



三條さんのお話を聞いた後の大川小学校前で



おいしい刺身を食べた後の食事会場前で

研修旅行に参加して

「てんでんこ、命を救おう」 飯坂3 大田節子様

「河口のアーチ型の橋にしか逃げ場が無く、そこで一晚過ごした方がいました。その時のことを考えながら学んでいきましょう。」という齋藤支部長のご挨拶で「一日研修旅行」は始まりました。目的地の資料やお茶やまんじゅう等のおやつが配られ、楽しい遠足気分になりました。

最初の研修地である大川小学校は、頂いた地図を見ると北上川のすぐ近く。学校の近くには小高い山。え?!山が近くにあるのになぜ命が奪われたの?本当は遠い所にあるの?疑問は膨らむばかりでした。大きい北上川を見ているうちに整備された広い駐車場にバスは止まりました。公園の中には黒ずんだ建物が寂しそうにぽつんと立っていました。

何もないところに残された大川小学校の校舎。語り部の三條さんが話してくださいました。辺り一面家々で街の中にあった小学校。桜の木の下での給食。夢中で白球を追う野球の練習。野外コンサートホールでの発表。子どもたちの弾んだ声が聞こえるようでした。中庭から

2分、校庭を横切ると、3年生がシイタケ栽培をしている山の入り口でした。こんなに近いのに!子どもたちがいつも見ている高い避難場所があるのに!

校庭に留まっていたために、津波で先生と児童のほとんどが流されたそうです。語り部の三條さんも津波でお子さんを亡くされました。「お母さんもすぐ帰るから」という電話をしたために、お子さんが逃げずに家で待っていたそうです。そのことを今でも悔やみ、私たちに話をするたびに心は涙と苦しさでいっぱいになると言います。

悲しい出来事でしたが、「研修旅行」という言葉にふさわしいたくさんの方のことを考えさせられる有意義な一時でした。ありがとうございました。「てんでんこ」改めて心に刻みました。

三陸リアス式海岸の景色を楽しみながら昼食会場へ。虹がかかった女川港、津波が嘘のようにきれいでした。初めての鯨の刺身のおいしさにビックリ。様々な海に出会えた心に残る旅でした。



左) 裏山のコンクリート通路より見る大川小学校全景(校舎上に見える白い筋が津波が遡上した北上川)

上) 津波で根こそぎ倒壊した旧女川交番

能登半島地震被害への義援金について

令和6年2月15日付「退公連 支部だより 第84号」にてお知らせとお願いをいたしました標記義援金は総額313,000円となりました。頂きました義援金は県事務局へ送金をさせていただきました。会員の皆様の善意に心より感謝申し上げます。また、能登地方は9月に、秋雨前線の影響で線状降水帯による豪雨災害に遭いました、一日も早い復旧・復興をお祈り申し上げます。

以上で能登半島地震災害に対する義援金募集は終了とさせていただきます。有難うございました。

世界マスターズ
ウェイトリフティング大会出場記
3区 今野金哉様

「2024 世界マスターズウェイトリフティング競技世界選手権大会」は、令和6年9月5日(木)から14日(土)までの間、フィンランド国ロヴァニエミ市(サンタスポーツセンター)において開催されました。

私は同大会の「M75(男子75歳から79歳)-67kg級」の日本代表(17名)として出場し、金メダルを得ることができました。

私の試合は9月5日の午前11時30分(日本時間同日午後5時30分)から開始されました。上位入賞を狙っていつもより1階級軽いクラスでの出場としたため、6kgほどの減量が必要でしたが、ホテルの室内にはサウナが備えてあり、検量を無事に通過して試合をすることができました。

今年の夏は殊の外暑く、思うような練習時間が十分取れない中での出場であり、自己ベストにはほど遠い(トータルで87kg)記録となりましたが、運良く優勝できた次第です。

私は昨年の大会(ポーランド)では準優勝。今回は順位を一つ上げることができましたが、これからの課題も見つかった試合でした。

私と同じグループで行動した5人の選手のうち、M70-61kg級の高野滋選手(福島市在住、無職)は昨年大会に続き2連覇、大内俊幸選手(二本松市在住、会社員)はM70-67kg級で6位に入賞しました。また、M70-81kg級の大沢春彦選手(青森県)は銀メダル、

M70-61kg級の佐古浩選手(広島県)は残念ながらジャーク種目で記録なし(失格)でした。

なお、高野選手と私は福島市からスポーツ奨励金をいただいているため、帰国後の9月20日、木幡浩福島市長に対して結果報告をしましたが、そのときの様子が「はまなかあいつ」(NHK福島)で放映されたため、退公連の多くの皆様からお祝いのメールを頂戴しました。この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

フィンランド滞在中にはわずかの空き時間もありましたので、趣味の写真撮影(ロヴァニエミ北部地方でのオーロラ撮影など)やヘルシンキ市内の世界遺産見学なども行い見聞を広めてきました。また、いつもの大会のように、諸外国から参加している選手との交流も重視して楽しむことができました。

当面の私の目標は、来年9月初旬、米国ラスベガスで開催される「2025 世界マスターズウェイトリフティング競技選手権大会」への出場であり、そのためには、今年12月末に愛媛県新居浜市において開催される「全日本マスターズウェイトリフティング競技選手権大会」で参加標準記録を突破することが必要です。

後期高齢者となった私にとって標準記録突破は、なかなか容易ではありませんが、更なる努力を傾注し、日本代表選手として選考していただけるよう頑張りたいと考えております。

今後とも退公連の皆様からのご鞭撻とご声援をよろしくお願いいたします。



ジャークで成功した私



右) 金メダルを得た私

おめでとうございます

秋の叙勲

瑞宝小綬章

中島 常夫様 (信夫2・警察)

市民美術展表彰

◇工芸・市美術賞

我彦 武様 (吾妻1・教職)

◇写真・市美術特別賞

大橋 誠寿様 (清水4・教職)

◇写真・寿賞

今野 金哉様 (三区9・警察)

どうぞよろしく願いたします

新入会員の皆様

小柴 宏幸様 (渡利1・県職)

森口 克彦様 (杉妻2・県職)

助川 浩一様 (瀬上2・県職)

我妻 嘉博様 (松川3・県職)

石川 靖様 (一区1・県職)

鈴木 勉様 (一区1・県職)

須田 真一様 (四区5・県職)

中島 博様 (渡利4・県職)

増田 聡様 (四区5・県職)

角田 祐喜男様 (五区1・県職)

坂内 健二様 (信夫1・県職)

お悔やみ

菊地 宏次様 (六区2・県職)

下山 千恵子様 (清水11・教職)

佐藤 昭八様 (渡利1・県職)

渡邊 浩右様 (二区1・教職)

片平 輝彦様 (六区2・教職)

生前のご功績を偲び、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

県大会「福島大会」を支えた方々

9月5日に開催された県大会を支えてくださいました実行委員の方々を紹介します。

(敬称は省略させていただきます。)

大会会長：室井 勝／総務：茅原秀雄・秋山時夫・三浦彰子・高橋寛信・大崎孝一／県事務局：大橋茂信／会計・表彰介添：高橋幸子

※以上が県事務局の皆様

実行委員長：齋藤文和／司会進行：阿久津文作・中川洋子／音楽：菱沼明美・吉田政弘／来賓紹介：吉川 博／祝電披露・決議朗読：今泉満臣／大会スローガン朗読：長谷川哲也／写真記録：甲賀 敬／会員受付：齋藤嘉則・野崎修司・吉田政弘／来賓受付：佐藤洋志・川崎康宏／接待：松崎順子・黒澤政子・二階堂晃子・長谷川悦子／救護：五十嵐登・羽根田湖津枝／会場：尾形淳一・川崎康宏／駐車場：長谷川哲也・吉川 博・成田良洋・三浦光伊／大会会計：三浦光伊※以上が支部役員の方々

◇県大会に参加された方々

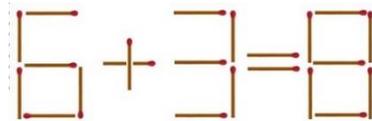
清野節子様・近野元洋様・河野正俊様・阿部隆様 (申込み順)

6年ぶりの県大会でした。皆様のご協力・ご尽力に感謝いたします。有難うございました。県大会の内容は、県会報212号をご覧ください。



前回の難読漢字の解答です。

「蝗」は「いなご」と読みます。今回はマッチ棒の問題です。マッチを1本だけ動かして、正しい式にしてください。(マッチ棒は全て使用します。)



県退職公務員連盟がHP (ホームページ) を開設しています。是非アクセスしてみてください。



<https://fukushima-taikouren.com>

編集後記

令和6年度「年金研修会」・「女性部研修会」を実施しました。詳しくは2月号で紹介いたします。

《記事掲載予告》

■日公連新聞877号(R6.12.25 発行予定) 『会員間の絆を深め 地域に貢献できる活動を』 福島支部福祉部長 甲賀 敬様

■県会報213号(R7.1.20 発行予定)

随想 『古関金子と短歌』

福島支部 副総務部長 今野金哉様